

アイシャドウで目もとを演出 手軽なお役立ちアイテム単色のアイシャドウ

2018年6月



アイシャドウは、まぶたを彩り、さまざまなイメージを演出するアイテムです。多色の使い分けに戸惑ったり、きれいなグラデーションをつくるのが難しかったりと、アイシャドウに苦手意識をもっている方はいらっしゃいませんか？

今回は、カネボウ化粧品美容研究所の原島麻由美が、アイシャドウの種類や使い方をご紹介しますとともに、単色のアイシャドウを用いて、簡単で自然に仕上がる目もとの演出についてご紹介します。

◆アイシャドウの選び方

アイシャドウは、目を大きく見せたり立体感をつくったりする効果があるメイクアイテムで、さまざまな質感や色のバリエーションがあります。

●タイプ

アイシャドウには、剤型の違いにより、パウダー、クリーム、ジェル、リクイドなど、さまざまな種類があります。もっとも一般的なパウダーは、カバー力があり、色味もしっかり出やすいことが特徴です。また、クリーム・ジェルやリクイドは、フィット感が高く、艶っぽい仕上がりを演出できます。

●単色／多色

単色のもの、複数の色がセットされたものがあります。単色のアイシャドウは、一色で簡単に目もとの印象を変えられるのがメリットです。また、目的の色だけ手軽に購入できるため、トレンドカラーを先取りしたり、お手持ちのアイシャドウにプラスして楽しむことも出来ます。多色のセットアイシャドウは、グラデーションやコントラストがひとつのパレットでできるのが特長です。



パウダータイプ



クリームタイプ



パウダータイプ

単色のアイシャドウ

多色のアイシャドウ

●色

ブルーやラベンダーなどの寒色系の色は目もとをすっきり見せたり、クールでシャープな印象を与えます。一方、ピンクやオレンジなど暖色系は肌になじみやすく、自然でやさしいイメージに。

今年は寒色系のカラーの一色使いも流行っています。季節や流行を感じる色味を取り入れてみるのも良いですね。

◆単色のアイシャドウを用いた簡単アイメイクテクニック

単色のアイシャドウを使うことで、さっとひとぬりで簡単に目もとの印象を変えることができます。

ナチュラルな仕上がりを好む方は、肌なじみのよいベージュ系、イエロー系、ピンク系がお勧めです。また、シャドウ効果で目もとを立体的に見せたい時は、濃いブラウン系が良いでしょう。

●単色アイシャドウの使い方のポイント

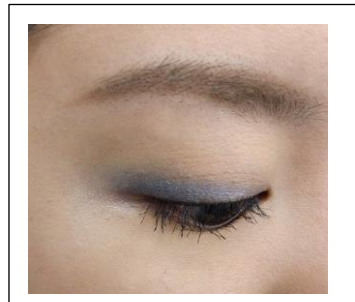
明るい色は、上まぶたに一色のせるだけで、くすみが消えて若々しい印象になります。指やチップにとり、アイホール（目のくり）全体にふんわりとのせるようになじませましょう。アイシャドウを塗っている部分と塗っていない部分の境界線ができないように、自然にぼかすことがポイントです。

濃い色は、目もとの印象を際立たせ、目を大きく見せる効果があります。指やチップで目尻から目の中央に向けて目の際にのばします。不自然な仕上がりにならないよう、アイシャドウの幅を太くしすぎないようにしましょう。指でつける場合は、力が入り過ぎないように、薬指か小指の腹の部分を使用するとちょうど良い幅になります。



明るい色

指やチップにとり、アイホール（目のくり）全体にふんわりと乗せる感じでなじませましょう。



濃い色

上まぶたを少し引上げ、目尻から目の中央に向けて目の際になぞるようにならせます。

基本をマスターしたら、その日の気分やファッション、なりたい印象などで自由に楽しんでみてくださいね。